

概 要

- 水族館や鯨御殿等の観光施設に隣接し、市街地から約 5 km と好アクセスの第 1 種漁港。
- 祝津地区全体での定住人口は減少している一方で、ホタテやウニ、シャコなど知名度の高い漁獲があり、近年では若手漁業者の新規就労が進み、活力ある漁港となっている。観光面では令和 6 年度の小樽市観光入込数は 800 万人を超えると予想され、地域観光施設へも波及効果がある。
- 地域住民や漁業者が協力し「おたる祝津にしん・おタテ祭り」開催や「茨木家中出張り番屋リノベーション」等、にぎわい作りの取組みが進んでいるが、来訪者が地場の魚介類へ触れる機会やサービスは限定的で付加価値化には課題がある。
- 本取組みを通じて、旬の地魚を題材とした学びの場「おたる海の学校」を設け、漁場環境の保全、資源管理への取組み、漁業の面白さを見える化し、生産から消費までのサプライチェーンからバリューチェーン化することで、漁村の活性化を目指す。



海業の取組概要

- 「おたる海の学校」の立上げと運営。
- 旬の地魚教材開発（カリキュラム）及び運営
- 旬の地魚を活用した食育（さばき体験、調理体験）
- 食育教材となる水産加工品の開発
- 漁村歴史文化、自然環境を活用した教育旅行の商品開発
- 上記の試行による運営体制の整備



地域のにぎわいや所得向上、雇用創出に資する取組みへブラッシュアップ。
・サービスや商品の販売拡大、・運営スタッフの雇用、・活動拠点の整備

効 果

ファミリー層をメインターゲットとした「おたる海の学校」を運営し地域活性化の基盤を形成することで、漁村・おたるブランドを育て、地域経済に貢献する。

- 小樽産の地魚の消費拡大（PR、体験プログラム、水産品の販売拡大）
- 学びをベースとすることで、質の高い交流人口、関係人人口の獲得
- 地域コミュニティの醸成、協力施設団体との協業体制づくり

協力体制

運営：NPO法人おたる祝津たなげ会

協力団体：小樽市漁業協同組合、小樽市、祝津町会、小樽観光協会、小樽商科大学、おたる水族館、北海道中小企業家同友会しりべし小樽支部、北海道海洋文化フォーラム、

スケジュール

令和 7 年 6 月 にしんおタテ祭りにブース出展
令和 7 年 8 月 海の学校・夏開催（ウニ）
令和 7 年 11 月 海の学校・秋開催（シャコ）
令和 8 年 1 月 海の学校・冬開催（ニシン）
令和 8 年 4 月 海の学校・春開催（海藻）

※順次カリキュラムを編成し教材を作成する
令和 8 年度 学校開催＋教育旅行の受入れ



活動拠点のニシン番屋



にしんおタテ祭り（H21～）